雪洞

糸魚川勤労者山岳会

会長　青木満麿

TEL025-552-9901

(2126)№76　発行 2019 年 11 月 29 日

山行記

★山域・山名＝岐阜・猪臥山（いぶしやま）1519m

★山行日＝2019 年 11 月 23 日（土）

★天　候＝快晴☀

★山行者＝加藤

▼今年の干支は「亥年」で、自分も亥年生まれなので、「亥」の字が入った山に、時にはこだわって登ってみようと思って探してみた。しかし、近いところにはないようだったので、代わりに「猪」の字が入った山を探してみると、岐阜県の飛騨古川に今回の猪臥山（ｲﾌﾞｼﾔﾏ）があり、計画した。

▼調べてみると登山口が３箇所あり（コースの名前がないので、仮に左、中、右とする）、左側コースから登って中コースを下山する周回コースを歩くことにした。左側コースの状況が大変そうだったが、頑張ってみようと思って出かけた。

▼快晴の富山から国道 41 号を走って岐阜県に入るころから急にガスで真っ白になってくる。どうしたことか･･･。まったくガスが切れる様子はない。「気温が上がってくるとガスが切れるかもしれないな･･･」と思いながら車を走らせ、飛騨古川から猪臥山を貫く長いトンネルを抜けると真っ青な青空に変わっていてビックリ❣

▼トンネルを抜けたところに広い駐車場があって、そこに登山者らしき人たちがいたので車を入れる。地元の若者三人がいて、「これから猪臥山か？」と声をかけると、「夜明けとともに登って、今下りてきたところだ」と言い、「天気が良かったから雲海と共に素晴らしい眺めだった」とのこと。

▼登山口を聞くと「ここに車を置いて中コースを往復するのが最短距離だ。登山道も歩きやすい。左コースの距離が中コースの 1.5 倍くらいあり、アップダウンも多い」と教えてもらう。いいことを？聞いたので周回コースはやめて中コースをピストンすることに変更して登山口を教えてもらい、準備をする。冷え込んだ空気に晩秋の青空が気持ちよい。初めての山なの

雲海の上に冠雪した大日岳、剣岳、立山、薬師岳などを見る

だが、天気が良く気分高揚して気合を入れる
▼中コースは大まかに調べてあって、林道歩きからスタート。軽トラックなら走れそうな林道だ。スギやヒノキなどが混植となった林の中を快調に歩く。山の斜面には広い範囲でカラマツが植林されている所もある。途中、トレランの女性２人が下っていく。日当たりに出ると暖かい。40 分程で林道終端となり、登山道に入る。
▼周囲はナラやブナなどに変わって晩秋の明るい樹林帯になっている。林床は背丈以上の笹竹が繁茂していて周囲を見ることはできない。こんな道が山頂付近まで続く。登山道はきれいに広くなっていて歩きやすい。緩急を繰り返しながら高度を上げる。時には樹林越しに遠くの山並みが見える。気温が上がって暖かくなる。
▼稜線分岐に登り詰めて左に折れる。周囲はまだ笹竹におおわれていて景色は見えない。平坦な道から最後の登りかと思いきや、さらに左上に高みが見える。手前の小ピークに登り詰めると一気に視界が広がる。振り返ると冠雪して噴煙を上げる御嶽山が大きい。
▼山頂らしいピークが見えてきてひと登りで猪臥山神社の祠で手を合わせ、すぐ上の猪臥山の山頂に着く。なんと、大パノラマではないか❣マップを広げて山座同定。雲海の上に毛勝、剱、立山、薬師、笠、穂高連峰、乗鞍、南ア、御嶽、白山などの名だたる名峰が遮るものなく絶景が広がっている。峰々は白く輝いてクッキリ。雲海と合わせて、これだけの景色を見られた山頂は記憶にない。これだけの景色を見られ、山や冥利に尽きる。
▼この時季にしては暖かく、ビールが美味しい。座ってのんびり飲食しているのがもったいなく、ほとんど立ち上がって景色を眺め、カメラに収める。山頂にはトレランの若者達、関西から来た年配の人達、地元の人など十数人。景色を眺めているだけでうれしくなる。
▼素晴らしい景色に感動・感激。至福のひと時があっという間に過ぎていき、２時間が経過。それでも見飽きることのない景色に後ろ髪を引かれながら山頂を後にする。往路を下って登山口に戻る。天気と展望に感謝しながら猪臥山登山を終わる。最高だった❣
▼タイム＝登山口 9:00…林道終端 9:40…稜線分岐 10:20…10:40 猪臥山 12:40…稜線分岐 12:50…林道終端 13:10…13:45 登山口

笠ケ岳、大キレット、穂高連峰など北アルプスの眺めが素晴らしい

▼時間が早かったので「宇津江四十八滝」巡りに行く。四十八滝の源は猪臥山付近の山腹約 1300m 付近にあり、急峻な谷あいに大小無数の滝を造り出しています。苔むす大樹や岩をぬい、落下する滝群はまさに秘境そのものでした。標高差 140m を１時間半かけて往復し、様々な滝を楽しみました。途中の展望台からは夕焼けの穂高連峰も見ることができました。（加藤）